

スピード

成年女子  
3000m

# 澤尻(八学大)は4位



「卒業までに1位を」  
澤尻、表彰台届かず闘志

昨年(2017年)は、ユニバーシアードに出場し、団体を含めて今年の決勝に進んだ。結果は4位と負けない。ポイントで完走すると、船場監督と話していた。澤尻は先頭についていたものの、2回の責任先頭を完了した後は脚が疲れた。最後は北海道の選手とのデッドヒートで、8着でゴールした。全力を出し切ったとレース後に笑顔で話した。

それでもレース内容は納得のいかない様子。一歩引いてみるように、なって、大学卒業までに表彰台の真ん中を取れたら」と闘志を燃やした。

チーム一丸で7位  
○：少年女子2000m  
がリレーで県勢は7位に終わった。レース後の選手たちは、結果に悲観することなく、「出し切りました」と爽やかだった。

1走・宮下(八学光星1年)は、「反応よくタックシユできた」とスタートで先頭に立ったが、コーナーで抜かれる番手に。続く2走・上野(同1年)もコーナーで加速しきれ



が失格となり、順位が繰り上がった。試合後は「実力差的に妥当」と結果を素直に受け入れた4人。「みんな頑張った。つなげられて良かった。」(尾崎)と笑顔で締めくくった。

ほかの選手と競りながらバトンをつないだ。3走・根本(同3年)が力走するも、前との差を縮め、後ろを離すことはできなかった。アンカーの尾崎(八戸西3年)は「転んでもいいから全力でカーブを曲がろう」と、スピードを落とすことなく最後まで奮闘。8着でゴールしたが4着の長野